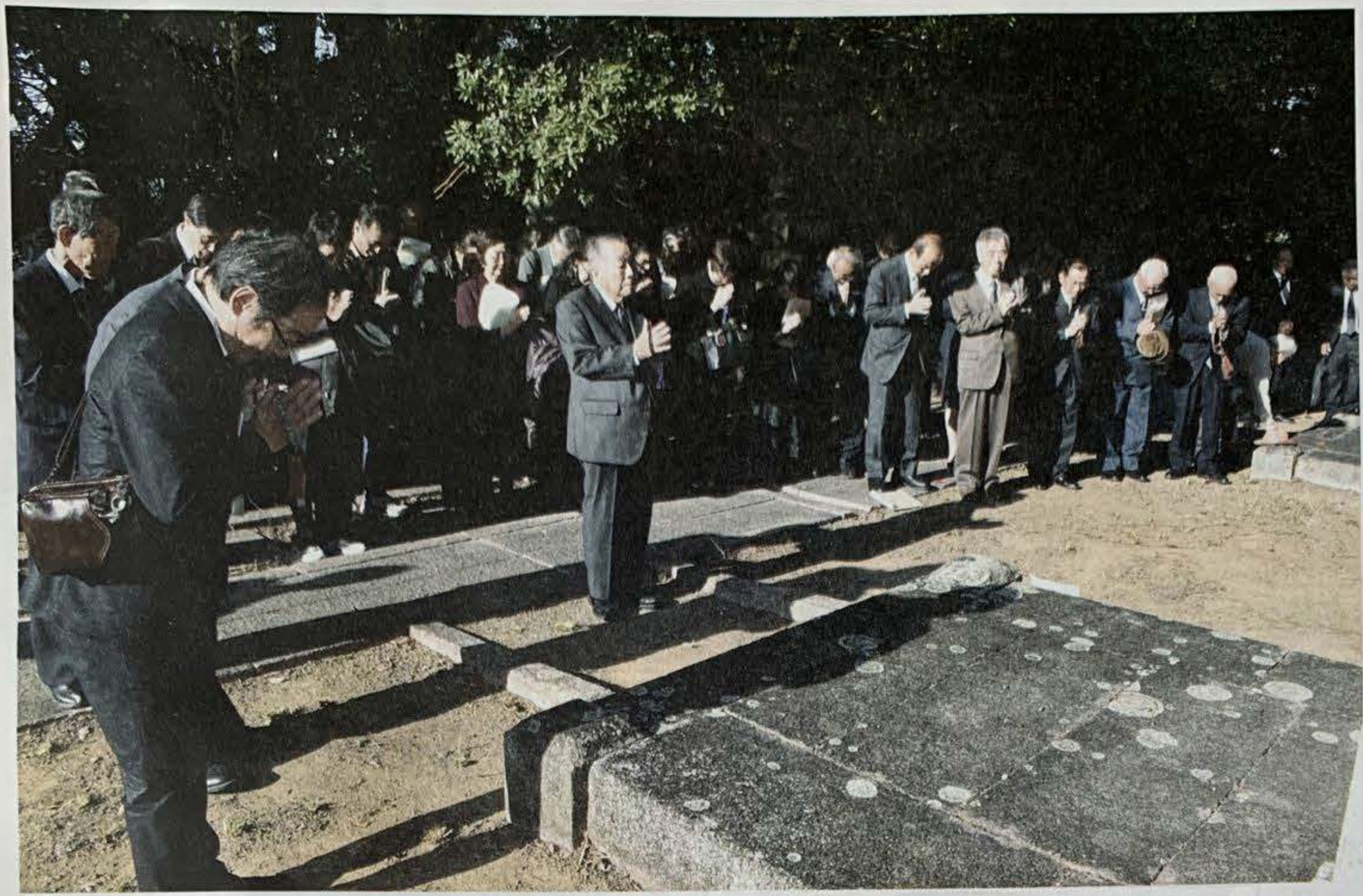
徳山藩の再興300年式典



墓所で手を合わせる参加者

藩主墓所と徳山七士墓参

徳山藩が一時、改易されたあと再興されて300年を記念する「徳山毛利家墓所と徳山七士墓参」が16日、周南市舞車町の大成寺（堀江一道住職）で80人が参加して開かれ、式典のあと近くの毛利家墓所や幕末に徳山藩内の対立から落命した7人の墓などを巡った。

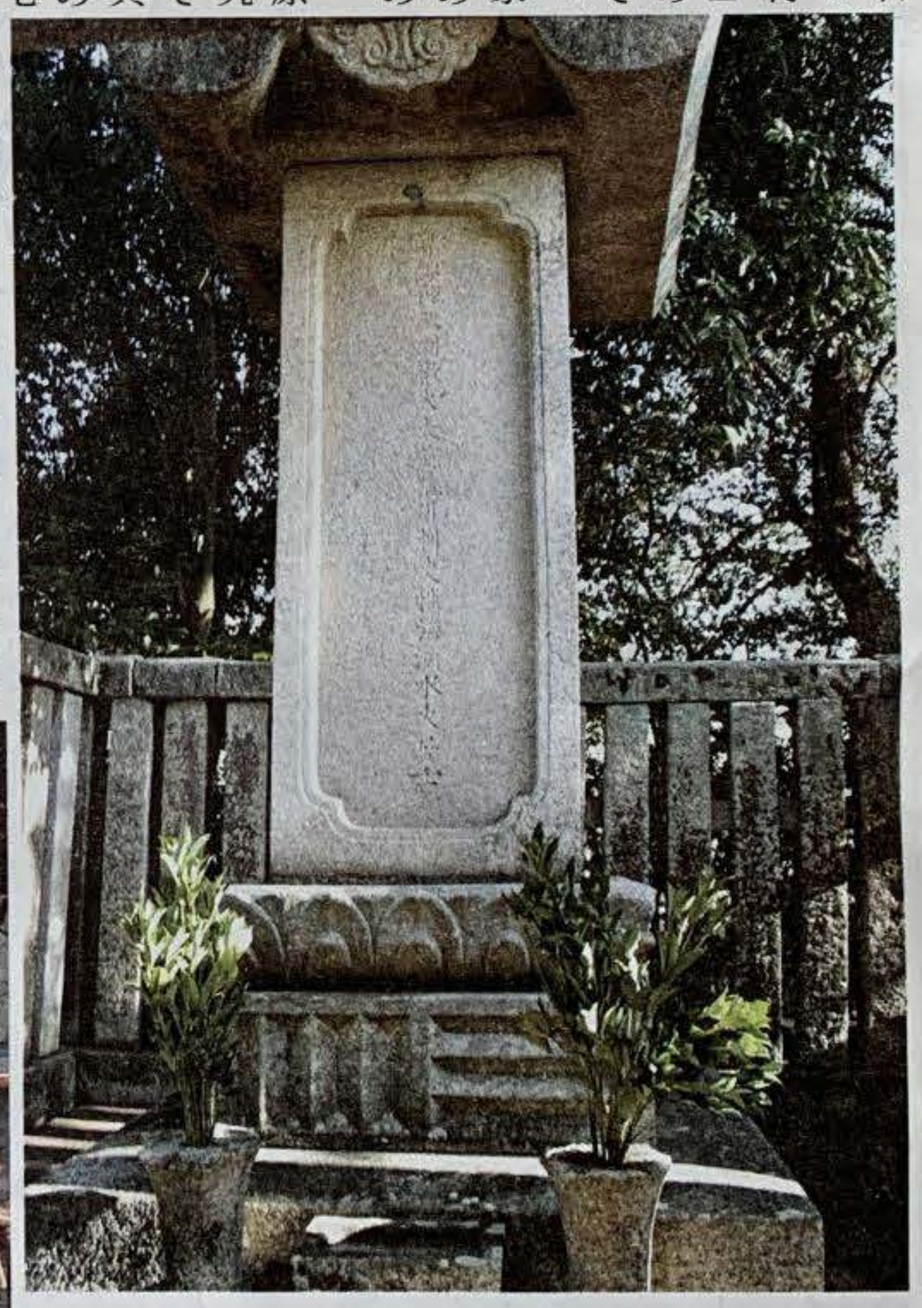
実行委員会（会長・原田茂徳山地方郷土史研究会長）が主催し、前日までに墓所の清掃もした。式典では参加者が焼香し、そのあと同寺の近くにある毛利家墓所にお参りした。続いて墓所に隣接している家臣らの墓にある徳山七士の本城清、信田作太夫の墓も訪れ、バスでそのほかの墓地も回った。

徳山藩は萩藩の支藩として元和3年（1717）に創設されたが、改易は徳山藩3代藩主、毛利元次と萩藩5代藩主、毛利吉元の間で正徳5年（1715）に起こった「万役山（まんにゃくやま）事件」によるもの。この事件では両藩の境界で松の木を伐採した萩藩の農民の首を徳山藩の足軽がはねた。吉元は翌年、幕府へこの事件を報告して元次の隠退を請願したが、幕府は吉元も思いもかけなかった徳山藩改易という厳しい処置をとった。

これに対し、徳山藩の家臣の奈古屋里人らが再興に尽力し、百姓の名前で幕府に嘆願するなどして享保4年（1719）に再興を実現させた。今年はこれから300年の節目になる。

式典は徳山毛利家ゆかりの人たちや郷土史に関心のある人、市議、県議などが参加。墓所は歴代藩主やその家族の立派な墓が並び、参加者は元次の墓の前で手を合わせた。

墓地の中を徳山七士の墓まで行く途中には周囲に雑草が茂った墓石もあり、実行委員長を務めた原田さんは「チームを作って力を合わせてきれいにしたい」と話していた。



毛利元次の墓

大成寺で開かれた式典

周南エリアの折り込み広告は
日刊新周南
ご用命は本社
☎0834・26・0303